

### QOL向上を目指した トータルの補助制度創設を

五十嵐 恵千子



**問** QOL(クオリティ・オブ・ライフ)とは、人生の質や社会的にみた「生活の質」を指している。過去から、加齢性難聴者への補聴器購入補助やがん患者へのウィッグ購入補助、带状疱疹ワクチン接種補助等、多種多様な要望がある。それらの市民要望を広くトータルの捉え、市民ニーズに応える制度の創設を。

**答** 支援対象や内容を限定的に捉えず、広く支援を行うことが可能となる一方で、サービスの合理性や公平性を確保することが必要となるので、これらの点を踏まえて検証する。

#### ◆電力・ガス・食料品等の価格高騰政策を

**問** 国からの追加臨時交付金を使い、物価高騰対策継続で市民の暮らしを守ろうと、3月28日に緊急要望書を市長へ提出し、今回の補正予算に全て計上していただいた。内容決定までの経緯と今後は本市独自で支援事業の継続を。

**答** 「命をまもる」「生活を支える」「地域経済を後押しする」の3大理念や交付金の趣旨を踏まえ、最適な支援を検討した。今後は、少子化対策の内容を踏まえ、必要性を検討する。

### 学びの保障に向けた不登校 対策COCOLOプラン

大泉 日出男



**問** 当市の教育委員会は、不登校の子どもの保護者に対してどのような取り組みをされているのか。

**答** 日頃より相談体制を築いており、様々な媒体で情報提供に努めている。

**問** 本プランの中で、教室へ行きづらくなった児童生徒が、学校内で落ち着いて学習ができる環境「スペシャルサポートルーム」等を配置すべきだとしているが、どう考えているか。

**答** 専用の場所のほうが望ましい。実施に向けた検討を行っていききたい。

**問** 学校の授業を①児童生徒の自宅②校内スペシャルサポートルーム③教育支援センターに配信し、オンライン指導ができる指導体制を確立すべきと思うが現状と今後の課題は。

**答** 指導を個別に行う事は困難だが、全ての児童生徒が受けられるように努める。

**問** 学びの保障に向けて成績に反映させることが重要。当市での中学校における現状と今後の取り組みについて伺う。

**答** 現状は難しいが、個々の希望に応じた進路に向けて丁寧に支援をしていく。

### 災害への備え 市発注工事について

赤出川 義夫



**問** 災害時応援協定の内容と状況は。

**答** 民間事業者と76件締結、一時避難場所として施設利用、食料や飲料水・段ボールベッドなど生活必需品の供給や、インフラやライフラインの復旧活動や医療・救護など協定を締結している。

**問** 市内・市外事業者の建設・土木工事の発注件数と金額、割合は。

**答** 令和4年度130万円を超える建築・土木工事の発注件数は67件、発注金額総額29億4千万円、市内事業者及び市内に営業所を有する事業者54件、発注金額21億円、受注件数の割合は約80%、金額の割合は約79%。

**問** 建設・土木工事の分割発注、総合評価方式で市内事業者の令和2年度以降の受注機会推移は。

**答** 市内事業者の分割発注は、令和2年度9件で約12億2千万円、令和3年度12件で約7億4千万円、令和4年度12件で約12億2千万円。総合評価方式発注は、平成19年度から導入。令和2年度10件で約23億5千万円、令和3年度9件で15億7千万円、令和4年度12件で約11億円。

### 新規バス路線及び移動支援 買い物支援について

小野 潔



**問** ①吉川美南駅東口ときよみ野を結ぶ新規バス路線運行に向けた状況。②道庭・中曽根地域への吉川美南駅発着の新規バス路線の協議状況。③「地域で取り組む移動支援団体」への具体的な支援制度と展望。④民間事業者の移動販売との自治体や自治会等によるタイアップは。

**答** ①運行経路、バス停、本数を協議、令和5年度中に運行開始。②運行に向け事業者と協議中。③補助金、市所有車両の貸し出し制度を構築し1団体へ補助している。今後は南側地域に広がる可能性を視野に入れ、活性化を図る。④行政による資金面での支援は慎重であるが、自治会をはじめ地域の方々との連携や販売者の駐車場の確保など協力できるものとする。

#### ◆産業振興及び事業者育成

**問** ①産業振興条例、計画には「事業者育成」の文字が見受けられないが、記載を。②公共工事入札の地域要件を八潮市並みにし、市内事業者が応札しやすいように。③市内事業者優先発注に係る実施指針や方針の策定を。

**答** ①②とも難しい。③研究する。